

聖隸おおぞら療育センター

2023年度末の入所者数は、122人であった。2024年度に18人が入所した。このうち14人は有期限入所であった。有期限の入所者のうち、2024年度末以降も入所を継続したのは2人であった。2024年度以前の入所者のうち、死亡退所は無かった。その他退所状況は在宅復帰16人で2024年度末の入所者数は2人増の124人となった。有期限入所を含めた18人が入所機能を利用したが、長期入所者数が4人増加したことは、介護者の高齢化や医療の複雑さに伴う介護負担の増大などにより入所の要望が徐々に増加していることを示唆している。

短期入所（ショートステイ）については、定床20人に対し、1日平均利用者数は7.9人であった。これは、宿泊のない人、同日に日中活動サービス（通所）を利用した人を含んだ数である。

サービス提供中も状態変化し易く濃厚な医療提供が必要となる人工呼吸器管理や先天性心疾患及びてんかん重積を起こしやすい等の利用者は短期入所という枠では対応できず、レスパイト入院として受け入れている。2024年度の1日平均利用者数は5.7人であった。医療の複雑化、高度化と共に在宅支援の現場では多くの時間と労力を要するようになってきている。一つの施設で対応できる課題ではなく、地域における支援の連携が益々求められる。

重症心身障害通所は、児童は児童発達支援センター「ひかりの子」で、成人は生活介護事業所「あさひ」の規格で運営している。「あさひ」は35人の定員に対し、1日の利用実績は27.5人。「ひかりの子」は15人の定員に対し、1日の利用実績は7.0人。両事業を合わせると、一日平均利用者数は約34.5人であった。

児童発達支援センターのなかで、重症心身障害就学児童の放課後と学校の長期休業時の通所である「放課後等デイサービス」は5人の定員に対し、1日の利用実績は4.0人であった。

総じて、2024年度も大過なく業務を遂行でき、「聖隸おおぞら療育センター」は、施設利用者に対し、障

害に即した医療を提供するとともに、個の尊厳を護り、質の高い生活を提供します」という運営理念は実践したと考えている。

(所長 木部 哲也)